

平成29年度病虫害発生予察予報第5号（8月）

平成29年8月3日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稻（普通期稲）	いもち病（穂いもち） ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ トビイロウンカ	少（県下全域） <u>多（県下全域）</u> <u>多（西）、やや多（東、中西）、</u> 平年並（中央） 少（県下全域） <u>多（中西、西）、やや多（中央）、</u> 少（東） 少（県下全域）
かんきつ類（温州みかん）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	少（中央） 少（中央） 少（中央） 少（中央） 少（中央）
かんきつ類（中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多（西）、やや多（中西）、</u> 平年並（東）、少（中央） 平年並（中央、中西）、少（東、西） 少（県下全域） 平年並（東、中央、中西）、少（西） 少（県下全域）

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 7 月 27 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 7 月 29 日から 8 月 28 日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は高い確率 60％です。降水量は平年並または少ない確率ともに 40％です。

週別の気温は 1 週目は高い確率 60％です。2 週目は平年並または高い確率ともに 40％です。3～4 週目は平年並または高い確率ともに 40％です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)	
1 ヶ月	四国地方	気温	10	30	60		
		降水量	40			40	20
		日照時間	30	40		30	

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	30	60	
2 週目		20	40	40	
3～4 週目		20	40	40	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：7 月 29 日（土）～ 8 月 28 日（月）

1 週目：7 月 29 日（土）～ 8 月 4 日（金）

2 週目：8 月 5 日（土）～ 8 月 11 日（金）

3～4 週目：8 月 12 日（土）～ 8 月 25 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 7 月の調査では葉いもちが県下全域で発生が見られたが、発生面積は全域で平年以下であった。

(2) 8 月の気温は高め、降水量は少なめ～平年並と予想されているため、穂いもちの発生は少なくなると考えられる。

対 策

(1) 出穂前に進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。

(2) QoI 剤耐性菌発生を防止するため、使用回数は作期を通じて 1 回とする。

(3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ごま葉枯病

予 想 発生量：多（県下全域）

根 抛

- (1) 本病が7月に発生することはほとんど無いが、7月の調査では県下全域で広域に発生が見られた。
- (2) 本病の発生は肥切れによって助長される。8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため、稲の生育は旺盛となり発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では穂ばらみみ期～穂揃い期に薬剤防除を行う。

3) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：多（西部）、やや多（東部、中西部）、平年並（中央部）

根 抛

- (1) 7月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部でやや多めであったが、他の地域は平年以下であった。また、発生程度が高い地域は見られなかった。
- (2) 8月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 近年、本県における発生は見られていないが、本虫は萎縮病を媒介するので発生に注意する。また、出穂期から登熟期にかけて密度が高密度になると、実入りが悪化することがあるので注意する。

4) セジロウンカ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 抛

- (1) 7月の調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積は全般的に少なめ、発生程度も平年以下であった。
- (2) 8月の気温は高めと予想されているため密度が増加すると考えられるが、発生程度の高い地域は見られていないため、今月と同様の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意する。多飛来があった場合には、産卵痕や吸汁により生育被害が出る可能性があるため注意する。

5) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（中西部、西部）、やや多（中央部）、少（東部）

根 抛

- (1) 7月の調査では県東部以外で発生が見られた。発生面積は県西部、西部は多かったが、中央部は平年並であった。
- (2) 8月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫による直接被害は少ないと思われるが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

6) トビイロウンカ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 7月の調査では発生は見られていない。また、他県でも目立った発生は見られていない。

対 策

(1) 株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では発生が見られなかった。

(2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では発生面積は少なく、発病程度も低かった。

(2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では発生が見られなかった。

(2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 7月の調査では発生面積は少なく、発生程度も低かった。

(2) 8月の気温は高めと予想されている。高温期には増殖が緩慢になるため、現在の

状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（西部）、やや多（中西部）、平年並（東部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 7月の調査では県中央部での発生は見られなかったが、県中西部、西部で発生面積が多め、東部は平年並であった。発生程度はいずれの地域も平年並であった。
- (2) 8月の降水量は少なめ～平年並予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：平年並（中央部、中西部）、少（東部、西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積は全般的に平年以下であった。発生程度は県中央部でやや高めであったが、他の地域は低かった。
- (2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1) 7月の調査では発生が見られなかった。
- (2) 8月の降水量は少なめ～平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考え

られる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：平年並（東部、中央部、中西部）、少（西部）

根 拠

- (1) 7月の調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積は全般的に平年以下であった。発生程度は県中央部、中西部で高めであったが、東部、西部は低めであった。
- (2) 8月の気温は高めと予想されている。高温期には増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1) 7月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.